

パンタナル通信

南北米福地開発協会 会報

2013年10月1日

121号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護

第十三回国際協力青年奉仕隊活動報告特集



トロパンパ村の学校の先生を中心に隊員と学校の生徒達（8月31日）

日本を出発した十三名の隊員は、パラグアイでブラジルからの隊員五名と合流し、そして二名のスタッフを加え二〇名で、パラグアイ各地で、現地を訪れ、学校の修復、植樹活動、そして文化交流を行いました。

首都、アスンションに二七日到着し、二八日はバスで五〇〇kmを移動し、八〇年前にドイツから宗教的信念を守るため移住しメノナイトが開拓したローマ普ラタ市を見学しました。

雨量が約年間八〇ミリの乾燥した不毛の地に、立派な都市を建設した歴史を学びました。

二九日から三日間は今回の奉仕の中心地、トロパンパ村で活動になりました。

トロパンパ村は人口九〇〇名で内陸にあり、常に水不足に悩まされている過疎地域です。水は全て雨水に頼り、池に集めたり、地下に飲み水として溜め、それを井戸として汲みだして生活をしています。地下は塩分が多く、地下水を飲み水として使用することが出来ないため、特に飲料水が問題となっています。

隊員は現地の水を飲むことが出来ないので持つて行つた水で過ごし、体はタオルで拭く生活となりました。

日本の支援者の支援を受けて準備し、今迄各学年に一冊しかない教科書を学年ごとに三〇冊、文具（ノート、鉛筆）、机、椅子、先生用の机、教科書を保管する本棚等を贈呈することが出来ました。また、教室の内壁と校舎の外壁を先生達と一緒にペイントする作業を行いました。

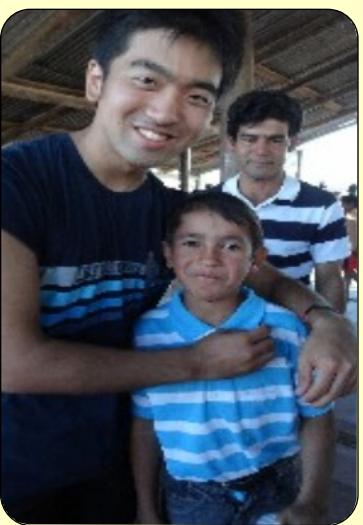


【教育支援で未来を拓く】



青年達が到着し、学校での歓迎会で、生徒達が合唱とパラグアイの伝統的衣装を着て、踊りを披露してくれました。日本の青年達も踊りと歌で感謝を表し、その後、日本のNPO日本救援衣料センターから提供してもらつたTシャツを二二〇名の学校の生徒、一人一人に隊員から渡しました。トロパンパ村では学校の修復に、三日間、授業を休み、課外活動として青年奉仕隊の青年と共に、村の中心道路に木を植えました。緑化活動を村始まって以来、初めて行いました。

また、青年と生徒達は活動の合間に、サッカーやバレー、ボル等のスポーツ交流、日本から持つて行った折り紙を使っての折り紙教室、日本の青年達と一緒に音楽のリズムに合わせて踊るなど、文化交流の時間を楽しみました。





第十二回奉仕隊活動の目的地の一つ、ミンガグアス市では今回、三回目の活動で市と共同して市民の憩いの公園作りを、現地の中高生とともにに行いました。

ミンガグアス市では南北米福地開発協会の協力が市の環境保護に対し、多大な貢献をしたことを感謝し、市長から当協会に感謝状が送られました。また、一緒に植林活動に参った学校の校長先生は、日本からの奉仕隊の活動が学校の学生の環境保護の意識を高めてくれ、心から感謝していると挨拶をしていました。

市長、市の関係者、学校の関係者と学生、そして青年奉仕隊の隊員が参加した現場での式典の後、市長と柴沼隊長が記念植樹を行いました。今年は今迄に一万三千本の苗木を市へ寄贈しており、今回の青年奉仕隊の活動とともに五十か所の学校で五百本の苗木を植え、総数五千本を植えました。



青年隊員は奉仕活動とともに神様が創造した自然の素晴らしさに触れ、環境保全の重要性を体感する経験もしました。チャコの大自然の中にある南北米福地財団の基地、レダでのひと時を楽しみ、奉仕隊最後のスケジュールでは世界最大のイグアスの滝を見学しました。



《日本の大学生がわが国を訪問》 (ABC新聞記事)
全体で十八名(日本人十三名とブラジル人五名)のボランティア隊が、十七日間に渡りわが国を巡つて、主にチャコ地方での体験などを報告しにわが社を訪れた。

学生達は南北米福地開発財団の招待で、同財団は二千年から大学生達をパラグアイに連れてきて奉仕活動をしてきている。

ボランティアの一人和田泰徳くん(二十一歳)は一番印象に残ったのがアルト・パラグアイ州のトロパンパ地方だと語った。その地域の人々が厳しい環境の中でも生活を発展させようと努力していることに触れた。そして政府がもつとこの地域の人々の心配をしてあげることが大切だと語った。ブラジル人ボランティアのバネサ・カステジョンさん(十八歳)は、どこに行つても迎えてくれた人々の好意と微笑が何よりも良かつたと語った。お互いに同じ言葉を話せないにもかかわらず、友情がその壁を打ち破ったと説明した。亀岡もとこさん(二十一歳)は日本では見られない自然の多さを見る機会があつたと語った。パラグアイの人間味の暖かさを感じ、先進国がパラグアイのような発展途上国を助けることの重要性を語った。



パンタナール一日特別研修会の御案内



開催日時：2013年11月4日（月）休日
受け付け開始：午前10時
セミナー：午前10時30分～午後5時
場所：大山街道ふるさと館2階
(南北米事務局前)
参加費：2000円（昼食代を含む）
詳しくは事務局までお問い合わせください。
電話：044-829-2821

朝夕めっきりと涼しくなり凌ぎやすくなつてきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか、晚秋の11月、さわやかな空の下、下記のような特別研修会を開催いたします。

南米パンタナールのレダ開発は14年目となり、多くの支援をいただき植樹、青年ボランティア隊派遣、先住民の村に学校建設、更にレダにおける養殖などを通し、国からも高い評価を受け、先回の大河パラグアイ川でのパク稚魚放流式典では、大統領御一行を迎えた。

それは環境保護の道を開き、式典も成功裏に行われ、多くの人々に感動と希望を与えました。

正にR e v. M o o n の「他のために生きる精神」の実践であり、生きた証です。皆様、今回的一日研修会を通して「創設者の考え方」や「地球環境問題」を見つめ直してみませんか。

きっと皆様にとって喜びの出発の日となるでしょう。

多くの皆様の積極的なご参加を、心からお待ちしております。

南北米福地開発協会
会員の募集中
**地球家族として
自然を守りましょう**

南北米福地開発協会事務局

〒213-0001
神奈川県川崎市高津区
溝口3-11-15
岩崎ビル4F

電話 044-829-2821
Fax 044-829-2820

会費納入 郵便口座
10180-77680471

E-MAIL : office@asd-nsa.jp
ホームページ : http://www.asd-nsa.jp

南米、パラグアイ・パンタナール地域へのエコツアーならびに植林活動を通じて生態系の維持と強化を促進し、その地域をモデルとし、世界に環境保護の大切さを訴えています。会費は月五〇〇円、毎月、パンタナール通信を送ります。また、各種のセミナー、エコツアー等の案内をいたします。